

## 八幡神社と廃寺

《志 茂》

志茂日向の八幡神社は、応神天皇を祭神として、武神の神として世に知られている。境内には、五六百年を経たと思われる老杉、数十本が空高く聳えている。この神社はその昔、僧行基が東北下向の折に、この地に、八幡大菩薩を勧請して祀つたのに始まるといわれている。

祭礼は旧八月十五日、満月の日であった。この神社の催しものは、例年、大花角力で、近郷近在の多数の若者が集まり、力と業を競い合い、盛大な祭であった。

村には、沢山竹林が繁茂し、直径二十センチ位の大竹（唐竹）が数多く生えていたので、角力の名は、「大竹」と名乗っていたのである。

花火もまた有名であった。村には若組があつて、十五歳より二十五歳までの、長男に限定され、祭日の一ヶ月前になると、若組一同出場して、花火造りに取組み、桐の炭や硫黄をヤゲンという器ですりつぶして、調合して作つた。当時を物語るように二五センチほどの桶筒に、たがの幾つかかけた筒が今も残っている。



八幡神社